

金属探し隊

2023. 11. 29

コロナ禍の令和3年度のことである。地域に根ざした学校、「子どもは木、地域は土、教員は風」などと言っておきながら、地域との連携を進めることができずにいた。子どもたちに地域との結び付きを実感させることができずにいた。何かできないだろうか。ずっと考えていた。

学校のすぐ近くに吾妻支所がある。そこの副支所長さんが、知り合いの方だった。その方が学校に来てくださった。「吾妻地区ふくしま共創のまちづくり計画推進懇談会」について話をしてくださった。懇談会の中で、有価物回収の話になった。地元業者に業者があり、回収していないのが金属だった。中学校と連携して有価物である金属を回収できないかという提案だった。渡りに舟だった。今風に言えば、Win-Winの関係だった。

話は具体化された。当時の生徒会役員の前で、私の方から話をした。すぐに生徒は動いてくれた。吾妻支所からも、回収用のボックスが運ばれてきた。それは、2つだった。磁石につく物とつかない物とを分けるためだった。立派な磁石もついてきた。

最初は、毎週水曜日の朝に、回収ボックスのところに持ってきてもらうことにした。これだと、生徒が持つため、大きな物、重い物はむずかしくなる。そこで、授業参観や教育相談など、保護者の皆さんが学校に来る機会に、回収箱を設置することにした。すると、フライパンや大きなものなどが集まるようになった。集まったものは、生徒会役員が回収用ボックスまで運んだ。

生徒会役員の生徒たちは、意欲的だった。「金属探し隊」それが、野田中学校で行う有価物回収活動の名称となった。この取り組みには、イメージキャラクターもある。「つくくん」と「つかかん」である。集めた金属を回収ボックスに入れる際に、磁石につく物とつかない物とに分ける。そこから、「つくくん」と「つかかん」が生まれた。

9月29日（金）に、「野田中学校生徒会『金属探し隊』への活動支援目録贈呈式」が、会議室で行われた。集まった金属は、金属を扱う地元の業者のところに持っていく。今回の贈呈式は、その業者の方から野田中学校生徒会へ活動支援が贈られるというものだった。具体的には、集めた有価物である金属が、プランターに植えられた花になった。きれいなかわいらしいパンジーである。これを生徒会役員の生徒たちが、八島田郵便局と八島田駐在所に届けてくれた。

この「金属探し隊」による有価物回収活動は、野田中学校だけでできるものではない。吾妻支所の方々のお世話になっている。「吾妻地区ふくしま共創のまちづくり計画推進懇談会」という組織もある。ここでは、大人だけでなく子どもも一緒になってSDGsなどの環境問題に取り組んでいく活動が行われている。野田中学校の「金属探し隊」もその一つである。

「金属探し隊」の活動が、環境問題について考えたり、地域との結び付きについて考えたり、生徒会活動について考えたりするきっかけとなることを願っている。八島田郵便局や八島田駐在所で、かわいらしいパンジーのプランターを見かけたら、それが「金属探し隊」の花である。野田中学校生徒会の花である。生徒と地域をつなぐ花である。